



『東北圏だより』



海フェスタおが

～ 海の祭典2013 in 秋田 ～

東北運輸局



<http://www.umifesta-oga.jp/>

「海フェスタ」とは「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識するための行事として、毎年、全国の主要港都市で「海の日」を中心に約2週間、海に関する様々なイベントが開催されております。

本年は7月13日（土）から28日（日）までの間、秋田県男鹿市を主会場とする5市町村（男鹿市・秋田市・湯上市・三種町・大潟村）共催で「海フェスタおが」として開催されます。

ここでは「なまはげ」、「竿灯まつり」、「統人行事」に代表される独特な地域文化、豊かな海産物、広大な干拓地から収穫される米、日本一の生産量を誇るじゅんさい等安全安心で多様な農産物などの地域の特色ある資源を生かしながら、海を通じた交流の歴史を育み、美しい海と海洋文化を後世に引き継ぐとともに、豊かな環境づくり、質の高い観光の提供等により地域の活性化を図ることをコンセプトとしています。



ナマハゲ竿灯まつり



「日本丸」の船内一般公開

また、例年、皇族からのご臨席を賜る記念式典及び祝賀会をはじめ、様々な船の一般公開・体験航海や、航空自衛隊所属のブルーインパルスによる展示飛行等、その他各種イベントの開催と内容が盛りだくさんとなっております。是非、秋田へ行って、見て、食べて、泊まってください。



「ブルーインパルス」による展示飛行

第7回 米代川流域圏における低炭素型国土形成のための協議会

平成25年3月5日に北秋田市中央公民館（北秋田市）において、「第7回米代川流域圏における低炭素型国土形成のための連絡協議会」が開催されました。

本連絡協議会は、22年度に国土交通省で実施した「低炭素型国土の形成に関する調査」の広域モデルとして、米代川流域圏の10市町村（秋田県大館市、鹿角市、北秋田市、小坂町、藤里町、三種町、八峰町、能代市、上小阿仁村、岩手県八幡平市）を対象に設置されたもので、22年度においては、流域圏におけるCO₂排出量の現状（19年度時点）と将来排出量の試算・削減ポテンシャルの推計等を行い、今後の取組方針についての検討を行いました。また、23年度においては、流域圏における低炭素型国土の形成に向けた取組のフォローアップ（20年度のCO₂排出量の結果報告等）を実施しました。

今回の第7回連絡協議会（24年度協議会）においては、秋田大学の菅原名誉教授、大館市・鹿角市・北秋田市等の流域圏自治体、東北運輸局・東北経済産業局・東北地方環境事務所等の国の出先機関及び東北電力株式会社秋田支店や北秋田市商工会等の関係機関が参加し、24年度に実施した木質バイオマス研究会及び小水力発電研究会の報告、米代川流域圏における低炭素型国土形成に向けた取組の骨子案の取りまとめに向けて、流域圏全体で連携して低炭素化に取り組む意義などについての議論を行いました。

推進室の一員となって

東北圏広域地方計画推進室 副室長 高橋 弘典

（東北地方整備局 企画部 環境調整官）

4月1日付で副室長に着任した高橋と申します。よろしくお願いいたします。

前任部署では雪に関連する業務に携わっており、豪雪地帯対策基本計画の改正を実施してきました。

東北を含めた豪雪地帯では毎年の恒常的な降積雪によって、住民の生活水準の向上や産業の発展が阻害されてきました。加えて、近年は人口減少、高齢化の進行により、雪処理の担い手不足が深刻化してきており、冬期における住民の生活に著しい支障をきたしている地域が増えており、豪雪地帯を取り巻く環境は厳しいものとなってきています。

そこで認識させられたのが、「共助による地域づくり」です。共助で実施する事により、より地域との密着が強まり、地域の間関係も密着してきております。さらに、他地域からのボランティア等を受け入れる事により、地域内だけでなく広域な地域づくりがおこなわれております。東北におきましても東日本大震災マターで多くのボランティア等にきていただき復興の一役になったと思います。

今後、共助による地域づくりを東北圏の広域地方計画にも反映していきたく思っておりますので皆様の格別のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

これから梅雨の時期になりますが、近年の降雨は局地的な大雨の傾向があり、様々な災害を引き起こしていますので、情報収集に努め、各機関とも万全の体制で乗り切っていきましょう。

次回の東北圏だよりは、6月1日、2日に盛大に開かれた東北六魂祭の報告です。お楽しみに。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp